



子どもとメディアを考える

未ださめやらぬコロナウイルス感染症拡大により、子どもたちのお家での過ごし方、そして教育機関におけるICT活用の拡大などにより、子どもたちの遊びや学びの環境が変化しています。本誌みちよつでも、幾度にわたり家族での過ごし方、メディアの扱いについて記してきましたが、今号では研究機関によるデータや、保護者さんへのアンケートをもとに今一度読者の皆様とともに「子どもとメディア」について考えて行きます。

便利さと葛藤

大小様々ではありつつも、8割以上の割合で動画・ゲームなどのデジタルメディアを活用していることがアンケート集計に現れていました。幼児から小学校3年生までのどの年齢でも、勉強や宿題、習い事といった利用科目より、「動画視聴(約8割)」、「写真撮影(4割超)」、「ゲーム(小学生だと約5割)」などの遊びの要素が強い活動の比率が高いことがわかりました。

子どもの年齢が上がると同時に、「保護者と一緒にデジタルメディアを使う比率」は減少し、逆に「子ども専用のスマホやタブレットを使っている比率」は増加の傾向にあり、年少児でも約75%は自分でアプリやソフトを立ち上げることができるといふ操作スキルについての集計もされています。

デジタルメディアの主な使用理由



メディアの主たる使用理由としては家庭での「生活シーンでの利便性」におけるものが多くなっていますが、「知識が豊かになる(幼児約24%・小学生約29%)」、「自宅でも学習や習い事ができる(幼児約19%・小学生約29%)」、「デジタルリテラシーが身につく(幼児約19%・小学生約29%)」といった理由を始め、思考力や表現力の学習、親子のコミュニケーションへの活用しているという回答も目立ちました。

情報の選択肢の幅広さや扱いやすさという特性からも、デジタルメディアを生活の一部として取り入れる家庭が多くなっている一方でお母さん方を対象とした「抵抗感」にも目を向けて見ましよう。

デジタルメディアの利用にどの程度抵抗感がありますか?

	幼児	小学生
●タブレット端末		
とても抵抗感がある	約12%	約8%
まあ抵抗感がある	約39%	約36%
あまり抵抗感はない	約39%	約44%
まったく抵抗感はない	約11%	約12%
●スマートフォン		
とても抵抗感がある	約22%	約20%
まあ抵抗感がある	約43%	約45%
あまり抵抗感はない	約28%	約27%
まったく抵抗感はない	約7%	約80%

やはり、様々なメリットを感じると同時に、デメリットや不安を抱える意見も目立ちます。持ち回りの良さや、操作性・学べる分野の多さといったメリットがある反面、「夢中になりすぎる」「目や健康への負担」、「生活のバランスやリズムへの影響」といったところへの不安を感じられるご意見が多くなっています。

家庭でのルール作り

続いて、家庭でのメディア利用に各ご家庭がどんなルール作りを行っているかに注目してみました。



上位は「利用時間」に関する約束事が多く、次いで「目や体の健康」に関する項目が目立ちました。また、暴力的なコンテンツに対する注意や、利用の際には保護者へ伝えること、また、内容を一緒に確認する、という「利用上のルール」についての声もあります。

より良い付き合い方は

今後もデジタル技術やインターネットの発達により、デジタルメディアを通して得ることのできるコンテンツはより豊かで多様性のあるものになっていくと予想されます。家族の生活を豊かにしていくための「コンテンツだからこそ家族での約束事を一緒に考え、それを暮らしの一部にしていくことが大切です。」

メディアと上手につきあうために大切にしたい3つのこと

- 1 映像やデジタルメディアは親子で一緒に楽しみましょう
- 2 番組やアプリは、お子さまの年齢・発達に合った質の良いものを選びましょう
- 3 将来、お子さまが、さまざまなデジタルメディアによって世界を広げられるように、幼いうちから、家族でメディアの使い方を考えて活用する習慣をつけましょう

※ベネッセ教育総合研究所サイト「小さな子どもとメディア」より

みなさまへ

今回は、実際にデジタルメディアに触れておられるご家庭の声を紹介させていただきました。自己の体験の中でも、いろんなご家庭を参考にしながら、少しずつ利用のルールや子どもに合った活用法が家族の生活に根付いている感覚があります。

葛藤のなか手探りでメディアを活用せざるをえない、というお声も多く頂戴します。今後も少しでも安心してルール作りに向かっていただければ、健康に関する具体的な利用注意や有識者からのアドバイスなどに着目し、皆様へ情報をお届けしたいと思えます。



(記事/松宮)